

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年3月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にありますが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告が16件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	16件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	播種性クリプトコックス症	1件

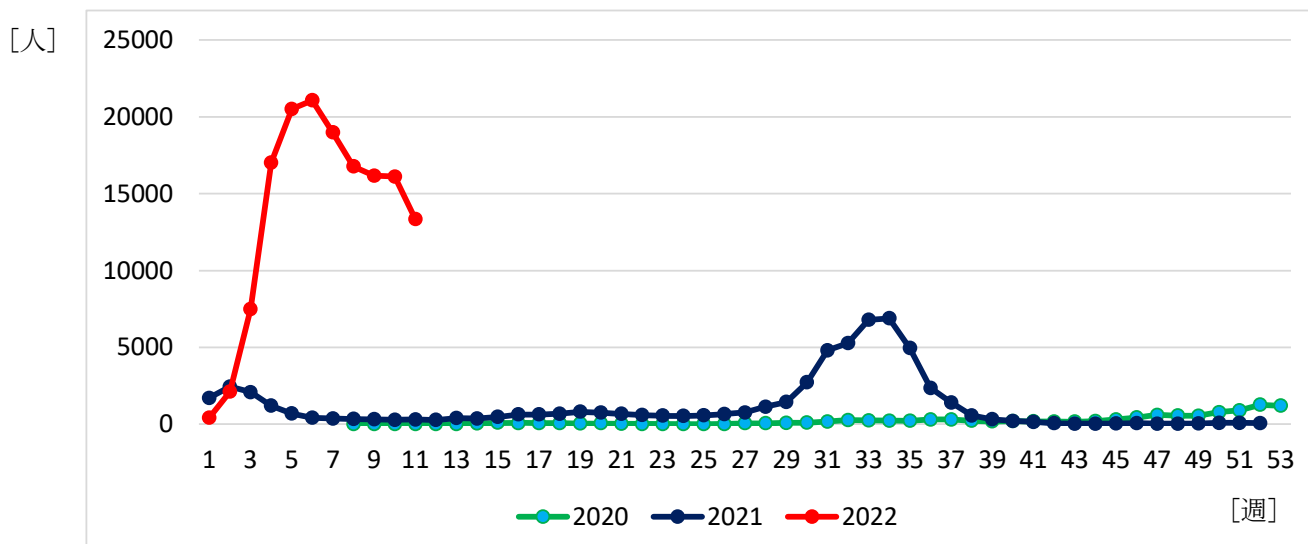
- 1 E型肝炎:4件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。いずれも献血時検査を契機に診断に至っています。(2020年8月5日採血分から、輸血用血液の安全性向上のため、全国一斉にE型肝炎検査(HEV NAT検査)が導入されています(日本赤十字社ホームページより。))
- 2 レジオネラ症:肺炎型1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 ウイルス性肝炎:B型肝炎1件の報告がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:A群4件、B群1件、G群2件の報告がありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDS1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも男性で、うち1件は異性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症:50歳代1件、70歳代1件、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 8 水痘(入院例に限る):10歳未満の臨床診断例1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 9 梅毒:早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者2件で、男性10件女性6件、すべて性的接触による感染(異性間13件、詳細不明3件)が推定されています。
- 10 播種性クリプトコックス症:免疫不全によるものと推定される80歳代1件の報告がありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

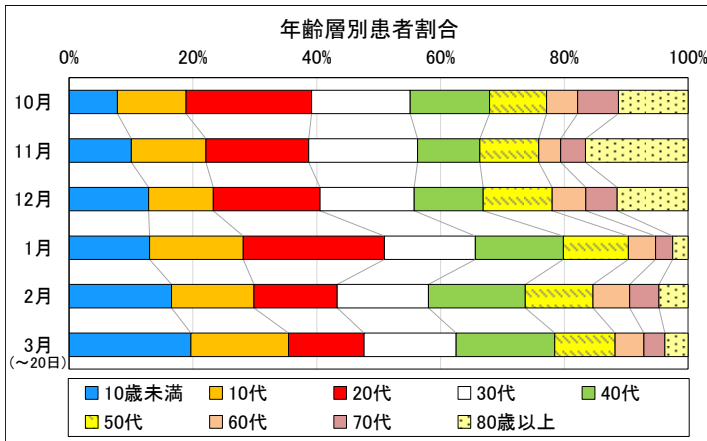
第7週～第11週に横浜市から報道発表のありました症例は81,378件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

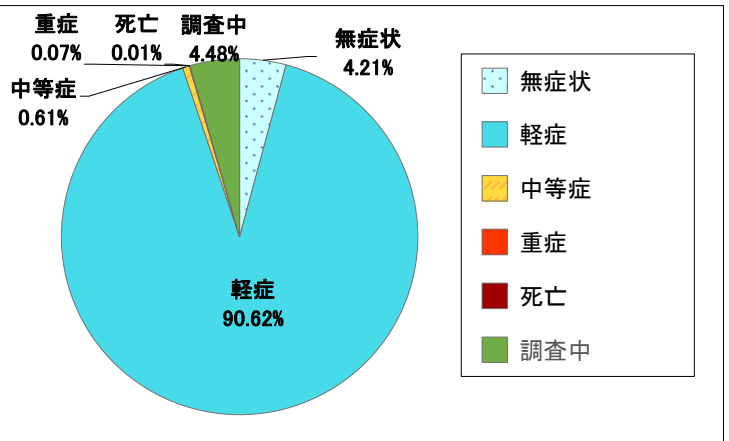
1 報告数の推移



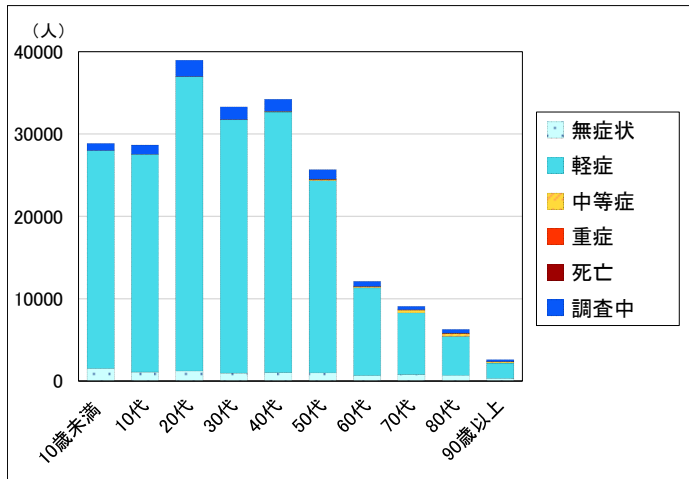
2 年齢別割合



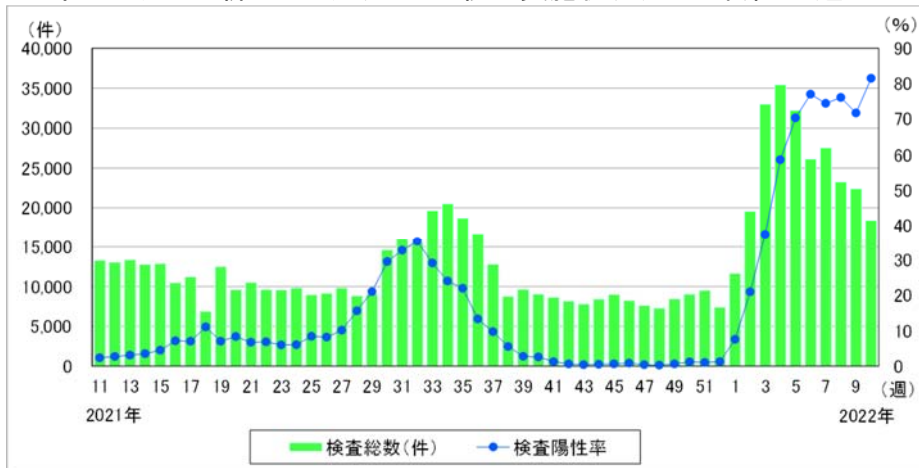
3 陽性確定時の症状の割合(2022 年第 11 週まで)



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022 年第 11 週まで)

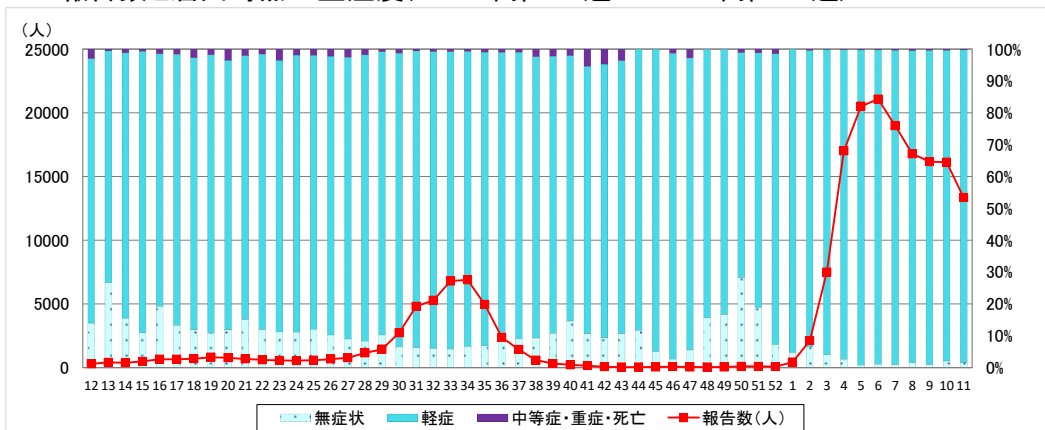


5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021 年第 11 週~2022 年第 10 週)



※ 検査総数:医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

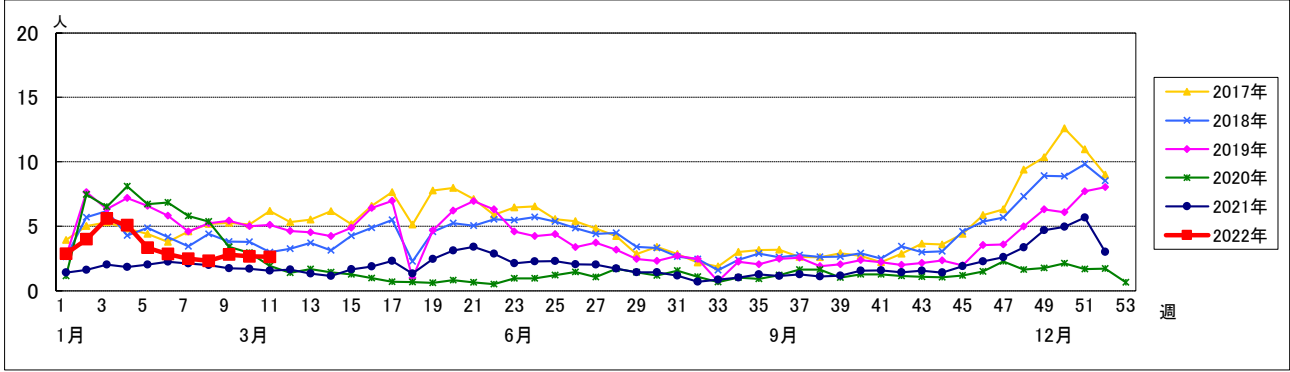
6 報告数と届出時点の重症度(2021 年第 12 週~2022 年第 11 週)



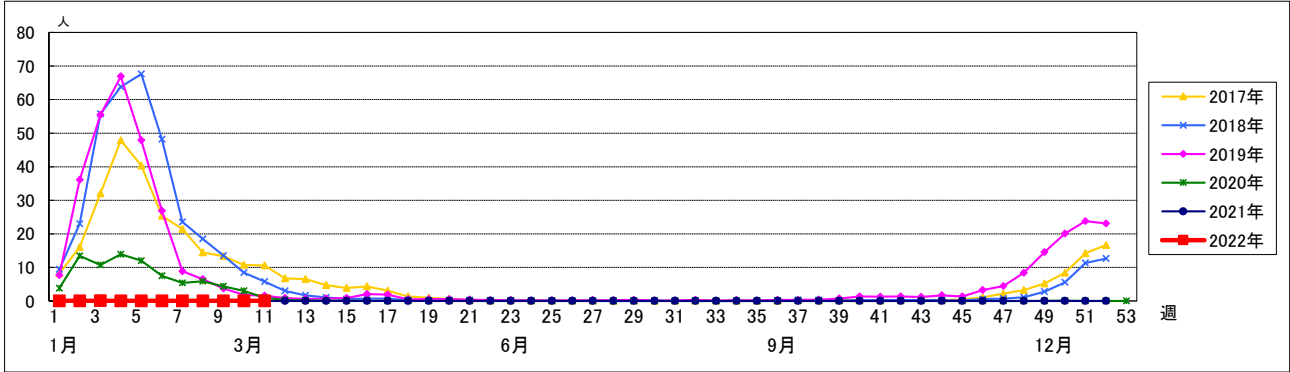
報告週対応表	
第7週	2月14日～2月20日
第8週	2月21日～2月27日
第9週	2月28日～3月6日
第10週	3月7日～3月13日
第11週	3月14日～3月20日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していて、第7週～第11週が、2.48、2.31、2.79、2.67、2.63と横ばいとなっています。



2 インフルエンザ: 例年より低めの報告数で推移しています。第8週～第11週は0.00となっています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:20件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:2件	淋菌感染症	男性:11件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.66	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

3月期(2022年第8週～第11週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点21件、内科定点2件、定点外医療機関からは2件でした。

単純ヘルペスウイルス1型分離1株及びヒトコロナウイルス遺伝子1件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第8週～第11週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
ヒトコロナウイルス*		1
単純ヘルペスウイルス 1型	1	
合計	1 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

*ヒトコロナウイルス:HCov OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

3月期(2022年第8週～第11週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、大腸菌1件、クリプトコックス1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、劇症型溶血性レンサ球菌6件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件でした。

「分離同定」の検査依頼は、ありませんでした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から消化器系病原菌が1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第8週～第11週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関 基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O15 : H+ (1)	
	クリプトコックス	1	<i>Cryptococcus neoformans</i> (1)	
保健所	劇症型溶血性レンサ球菌	6	A群溶血性レンサ球菌 TUT型 (1)、 A群溶血性レンサ球菌 T22型 (1)、 A群溶血性レンサ球菌 TB3264型 (1)、 A群溶血性レンサ球菌 T28型 (1)、 G群溶血性レンサ球菌 (2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	直腸ぬぐい液	消化器系病原菌	1	消化器系病原菌不検出 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】